

令和六年度
しずおか遺産認定記念特別展

源流

文

と

武

の

第一部

長谷川一族が見つめた

今川の盛衰

7月6日 土 ~

10月14日 祝

入館無料

焼津市歴史民俗資料館

焼津市文化センター内 〒425-0071 焼津市三ヶ名 1550 054-629-6847
【開館時間】 9時~17時 【休館日】 月曜日（祝日の場合は開館、翌平日休館）

いざ行かん 山西の地へ

今川 文と武の源流

第一部

長谷川一族が見つめた 今川の盛衰

駿河の今川氏

戦国時代、駿河の戦国大名として名を馳せた今川氏。今川氏は、室町將軍足利氏の血筋にあたり、「御所（足利）が絶えれば吉良が継ぎ、吉良が絶えれば今川が継ぐ」とまでいわれた名門でした。織田信長に敗れた歴史の敗者として語られがちですが、室町幕府を「武力」で支える一方、京都の公家衆との交流によって「文化」を庇護し、とりわけ歌をたしなむ家柄でもありました。室町時代から戦国時代にかけて駿河を治めた今川氏こそが、のちに徳川家康により花開く駿河の文化の礎を築いたともいえます。

山西の地と今川氏

二〇〇年の長きに渡り駿河の地を支配した今川氏の歴史の節目には、「山西（やまにし）」（現在の志太地域）の土地と人が大きく関わっています。今川氏が駿河で最初に領地を得たのは山西の地（現在の藤枝市葉梨地区）であり、今川義元が歴史の表舞台に登場する契機となった家督争いの戦いの舞台もまた、ここ山西の地でした。第一部では、焼津の小川（こがわ）城主で「山西の有徳人」とも称された長谷川一族にスポットを当てます。

焼津小川の長谷川氏

長谷川氏は、海運の基地である小川湊（こがわみなと）をおさえ、古代東海道の小川駅比定地附近に館を構える裕福な土豪でした。長谷川氏の館である小川城は、東西一五〇㍎、南北八〇㍎にもおよぶ巨大な堀に囲まれた平城で、その跡地は長く「長者屋敷」と呼ばれていました。

一族の来歴は、詳らかではありませんが、六代今川義忠の死後に起こった家督争いの際に、伊勢新九郎盛時（北条早雲）の要請で、幼少の今川氏親（龍王丸）をかくまった一族として知られています。今川氏滅亡後は、徳川家康に仕え旗本となりました。その子孫の一人が、池波正太郎の小説で有名な「鬼の平蔵」こと長谷川宣以（のぶため）です。

記録が物語る長谷川氏の交流

小川城跡の発掘では、大陸からの貿易陶磁器類や茶臼、花入れなどが見つかっている。長谷川氏が、京都の公家衆が駿河にもたらした最先端の文化を享受していたことを物語っています。今川氏に仕えた連歌師宗長とよしみを通じ、連歌の会を催していたことが記録に残ることから、長谷川氏のもとを公家や僧侶など多くの人が訪れ、様々な情報や物が集まっていたことが推測されます。

その財力と人脈で、氏親、氏輝、義元、氏真と、四代にわたりおよそ一〇〇年間、今川氏を支えた長谷川氏。一族が見つめた今川の盛衰を様々な角度から紹介します。



上段:左/小川城跡石碑 右/小川城館正面の堀と門の跡
中段:左/長谷川正宣夫妻の墓(林叟院) 中央/「林叟院開闢略縁起」部分(林叟院蔵) 右/小川城出土遺物
下段:左/賢仲繁哲像(林叟院蔵) 右/林叟院
背景地図「静岡県志太郡小川村地番反別入地図」(小川城跡部分)

◇「しずおか遺産」とは

静岡県の魅力ある歴史文化を県内外の多くの人知ってもらい、現地を訪れていただくことを目指し、文化財を紹介するストーリーを県が認定する制度です。令和5年度に「文武に秀でた今川一族～伝統を守る山西の地～」が認定されました。

しずおか遺産認定記念特別展
「今川 文と武の源流」

第二部 駿河要衝の地 焼津

会期 令和6年10月20日(日)
～令和7年2月2日(日)

特別展開連講座(要申込)

「考古学から探る駿府城
—今川氏から続く駿府城のあゆみ—」

日時 令和6年7月20日(土)

会場 焼津文化会館 会議室

講師 増山慎氏(静岡県歴史文化課)

焼津市歴史民俗資料館

〒425-0071 静岡県焼津市三ヶ名 1550
TEL 054-629-6847

◇JR 東海道線焼津駅下車

南口④乗り場からバスで5分

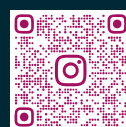
「文化センター前」下車

◇東名高速道路焼津ICから約10分

無料駐車場完備



ホームページ



Instagram

